別紙４

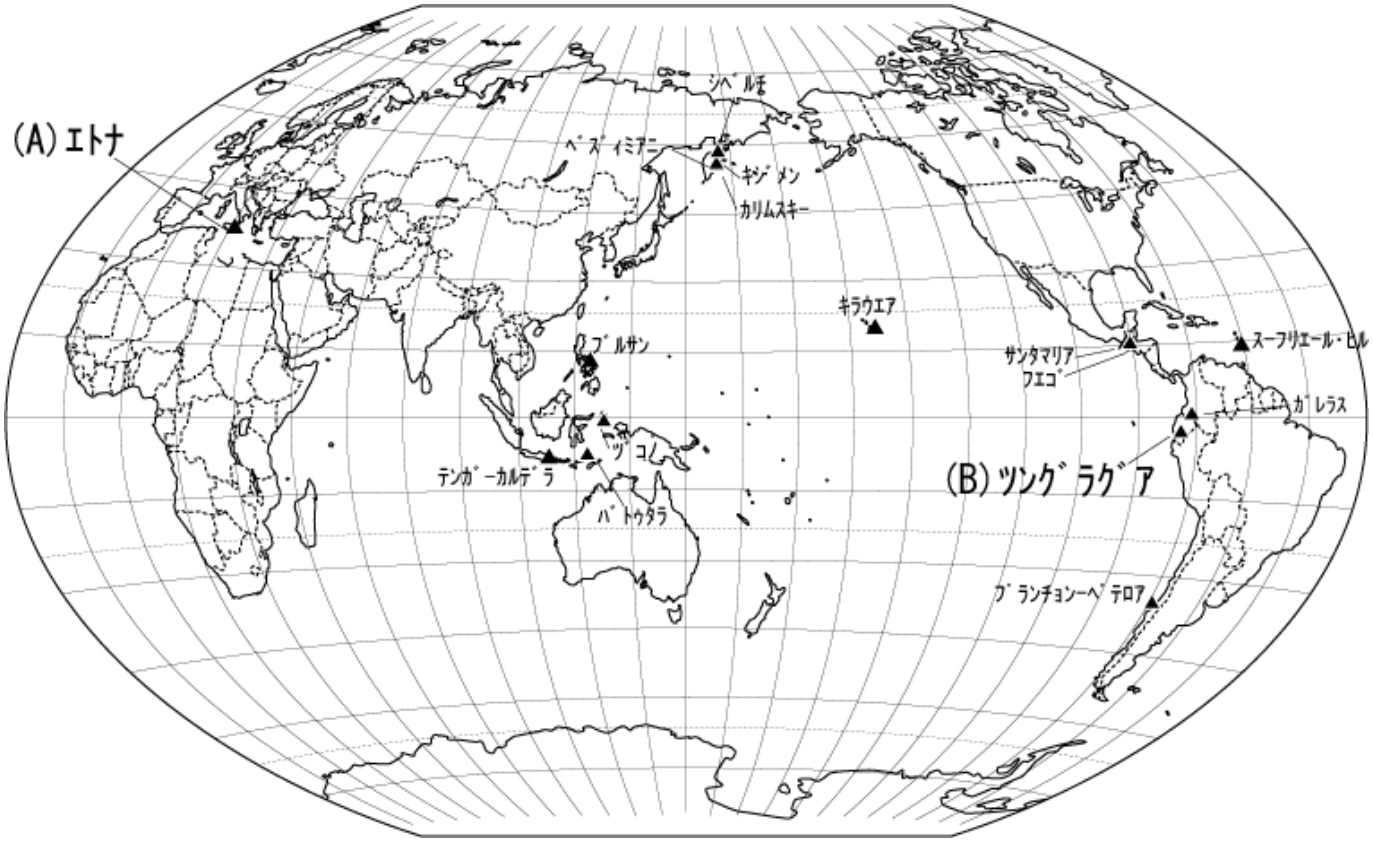
● 世界の主な火山活動

平成 23 年（2011 年）４月に噴火したと報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。

エトナ（イタリア）（図中Ａ）

８日に南東火口丘の東山腹の火口からストロンボリ式噴火が始まり、９日には溶岩流がバッレ・デル・ボーベ谷の西壁へ向かって流れ下った。10 日には溶岩噴泉が生じ、火山灰が南東へ流れ、風下の地域で降灰があった。同日発生した溶岩流が雪と接触して爆発的な噴火を引き起こし、火砕流が生じたが、その後噴火活動は急速に衰え、午後以降みられなくなった。

ツングラグア（エクアドル）（図中Ｂ）

21 日にストロンボリ式噴火が発生し、溶岩噴泉が生じた。26 日には爆発が６回発生し、火山灰が 12km の高さまで上がった。29 日に微動が大きくなり、ストロンボリ式噴火が増加した。トラック程の大きさの石が火口から噴出し、山腹に落下して幅10ｍのインパクトクレーターを作った。約 300 人が避難した。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館のＧＶＰ（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）